

# 第122回 信州整形外科懇談会

日本整形外科学会認定教育研修講演

(日整会 専門医1単位)

講師：湘南鎌倉総合病院 副院長  
外傷センター長 土田 芳彦 先生

演題：若手に伝えたい外傷整形外科医の心

- 日 時 : 2018年8月18日(土) 12:30~  
会 場 : 小諸市市民交流センター ステラホール  
参 加 費 : 3,000円(初期研修医; 1,000円)  
抄録掲載料 : 1,000円(発表者)  
単位申請料 : 1,000円(日整会教育研修単位取得希望の場合、当日受付にて申し受けます)  
発 表 : 1例報告1題4分、その他5分、討論2分、パソコン単写  
抄 録 : 信州医学会雑誌に掲載されます。  
\*投稿規定に従い当日に、発表演題とともにUSBフラッシュメモリにて  
ご持参下さい。

当番幹事 浅間南麓こもろ医療センター

北側 恵史

TEL 0267-22-1070

共 催 信州整形外科懇談会/科研製薬株式会社

## 発表形式について

1. Windows 版、Powerpoint ファイルとして USB フラッシュメモリで持参してください。
2. ファイル名は“演題番号氏名”としてください。(例 “4 吉田和薫 ppt.”)
3. コンピュータ本体の持ち込みはできません。
4. トラブルに備えて必ずバックアップを持参してください。

## 抄録投稿規定

- ①Windows 版、Word ファイルとして USB フラッシュメモリで、必ず懇談会当日に持参してください。
- ②形式は例を参照して作成してください。
- ③本文は 400 字以内 (25 字×16 行) としてください。
- ④演題名、所属、演者名、本文の誤字脱字を入念にチェックして提出してください。

演題番号	演題名
施設名 演者名 : (演者に○をつける)	
本文	

### 投稿例

4. 第3楔状骨に発生した骨巨細胞腫の1例  
信州大学整形外科  
○吉田和薫, 吉村康夫, 磯部研一  
新井秀希, 青木 薫, 加藤博之

症例は30歳男性. 階段昇降後に右足部痛を自覚. 他院で右第3楔状骨に骨透亮像, 病的骨折を指摘され当科紹介となった. 単純X線で第3楔状骨に骨透亮像を認め, CTで骨皮質の菲薄化, 膨隆と一部途絶を認めた. . . . .

## 製品紹介 (12:30~12:40)

関節機能改善剤 アルツディスポ関節注 25mg 科研製薬株式会社

## 下肢 (12:40~13:40)

座長：佐藤 新司 (浅間南麓こもろ医療センター)

### 1. 進行期の変形性膝関節症に合併した膝関節内骨折の2例

佐久市立国保浅間総合病院

○喜多岡亮太、角田俊治、村島隆太郎、坂井邦臣、有吉 大、中村 洋、  
佐々木貫了、石井大輔、竹居隼人

進行期の変形性膝関節症に膝関節内骨折を合併した2例(大腿骨遠位部骨折、脛骨近位部骨折)に対して観血的整復内固定と人工膝関節全置換を同時に行った。術後経過は良好であり、一期的手術は有効であると考えられる。

### 2. 重度の拘縮を呈した人工膝関節再置換術症例における脛骨粗面骨切りアプローチの有用性とpitfall

南長野医療センター篠ノ井総合病院 整形外科

○野村博紀、丸山正昭、外立裕之、大島諒士

関節内を展開する際に膝蓋腱に無理な負荷をかけることは脛骨粗面からの膝蓋腱の剥離を誘発し機能再建に難渋することがあるが、脛骨粗面に敢えて骨切りするアプローチはそうした合併症を回避できる有用な方法である。

### 3. \*MPFL 再建術後にタナ障害を生じた1例

信州大学 整形外科

○中西真也、天正恵治、岩浅智哉、小山 傑、下平浩揮、加藤博之

MPFL 再建術後にタナ障害を生じた稀な1例を経験したので報告する。症例は16歳女性、反復性膝蓋骨脱臼に対し MPFL 再建術を施行した。術後から膝蓋骨内縁の疼痛が出現した。タナ障害と考え、関節鏡下滑膜ひだ切除を施行し症状は改善した。

### 4. \*右側の変形性足関節症と外反型膝関節症を合併した1例

飯田市立病院 整形外科

○宮澤 駿、野村隆洋、福澤拓馬、畑中大介、伊坪敏郎、伊東秀博

右足関節痛の66歳女性。右足関節症に外反型膝関節症を合併しており、まずTKAで足関節のアライメントを改善したところ右足関節痛が軽快した。その後徐々に右足関節痛が増悪したため78歳で右足関節固定術を施行した。

## 5. ※股関節結核後の強直股および同側変形性足関節症の1例

佐久市立国保浅間総合病院

○竹居隼人、角田俊治、村島隆太郎、坂井邦臣、有吉 大、中村 洋、  
佐々木貫了、喜多岡亮太、石井大輔、

股関節結核後の強直股に同側の変形性足関節症を合併した症例に対して、1 期的に人工股関節全置換術および関節鏡下距腿関節固定術を行った1例を経験したので、若干の文献的考察を加えて報告する。

## 6. ※人工股関節置換術後に感染により中殿筋が消失した症例に対して再置換術を施行した1例

諏訪赤十字病院 整形外科

○重信圭祐、小山勇介、小松雅俊、青木哲宏、中川浩之、小林千益

65歳女性。左亜脱臼性股関節症で骨切り術後、2007年にTHA施行。術後7年で脱臼を生じ、翌年に股関節周囲液体貯留と大転子部融解を生じた。2 期的再置換術時に感染による中殿筋消失を認めたが術後経過は良好であった。

## 腫瘍・小児 (13:40~14:30)

座長：吉村 康夫 (信州上田医療センター)

## 7. ※切除困難な動脈瘤様骨嚢腫に対してデノスマブが著効した一例

信州大学 整形外科<sup>1)</sup>

信州上田医療センター 整形外科<sup>2)</sup>

○前角悠介<sup>1)</sup>、岡本正則<sup>1)</sup>、鬼頭宗久<sup>1)</sup>、青木 薫<sup>1)</sup>、田中厚誌<sup>1)</sup>、  
鈴木周一郎<sup>1)</sup>、樽田大輝<sup>1)</sup>、吉村康夫<sup>2)</sup>、高沢 彰<sup>2)</sup>、加藤博之<sup>1)</sup>

症例は19歳男性である。左腸骨動脈瘤様骨嚢腫に対して、デノスマブ(ランマーク)による保存療法を行った。治療開始28か月が経過し、腫瘍は著明に石灰化した。局所制御は良好であり、機能障害は認めない。

## 8. ※摘出術を施行した両膝巨大痛風結節の1例

長野松代総合病院 整形外科

○水谷康彦、堀内博志、中村順之、小藤田能之、西村匡博、瀧澤 勉

症例は60歳、男性で両膝前方に存在した腫瘤により生じる疼痛や可動域制限を主訴に来院した。腫瘤摘出術を施行し、症状は消失した。摘出物の病理所見および偏光顕微鏡所見から、痛風結節と診断した。

## 9. こどもの下肢痛 成長痛で良いのか？

長野県立こども病院 整形外科

○白山輝樹、松原光宏、酒井典子

こどもの下肢痛に対し成長痛と診断し経過観察後、ペルテス病と診断された。当院紹介時には既に骨頭の圧壊が進んでいた。こどもの下肢痛に対する診察手技、単純X線撮影部位、そして読影について報告する。

## 10. 乳児臼蓋形成不全の自然経過

信州大学 整形外科<sup>1)</sup>

長野県立こども病院 整形外科<sup>2)</sup>

○樽田大輝<sup>1)</sup>、酒井典子<sup>2)</sup>、松原光宏<sup>2)</sup>

乳児臼蓋形成不全の自然経過を検討した。臼蓋形成不全は $\alpha$ 角 $30^\circ$ 以上とした。22 股関節中全例が 5 歳時で改善した。臼蓋は幼少期正常でも成熟期に臼蓋形成不全に至ることがあり、引き続き臼蓋形態の評価が必要である。

## 11. 乳児期の臼蓋形成不全を『推奨項目』でスクリーニングできるか？

長野県立こども病院 整形外科

○松原光宏、酒井典子、白山輝樹

乳児健診で『推奨項目』を用い臼蓋形成不全がスクリーニングできるか検討した。乳児健診で全例 X 線撮影を行っている飯田市で『推奨項目』を併用し $\alpha$ 角 $30^\circ$ 以上を臼蓋形成不全とし『推奨項目』の精度を検討した。

## 12. ＊対立できない三指節母指の治療経験

長野赤十字病院 形成外科

○重吉祐亮、岩澤幹直、三島吉登、細見謙登

3 か月女児、母指異常のため受診した。両手に対立できない三指節母指を認めた。1 歳半時右母指再建のため指節短縮、第一指間形成と対立再建を行い、2 歳時左母指再建を行った。握りつまみ動作が可能となった。

## 手・感染・リウマチ (14:30~15:05)

座長：宮 正彦(浅間南麓こもろ医療センター)

## 13. ＊スプリント療法を行った骨性槌指の 1 例

佐久穂町立千曲病院 リハビリテーション科<sup>1)</sup>

すみだクリニック<sup>2)</sup>

○星野貴正(PT)<sup>1)</sup>、木次翔子(OT)<sup>1)</sup>、井出祐里恵(OT)<sup>1)</sup>、溝上真司(RT)<sup>1)</sup>、  
隅田 潤<sup>2)</sup>

受傷から約 1 か月経過した骨性槌指の症例に段階的なスプリント療法を行った。若干離開した状態であるが末節骨背側での連続性を得て、DIP 関節自動伸展域の改善を認めたので報告する。

## 14. ＊猫咬傷による骨髓炎により左中指末節骨骨融解をきたした 1 例

岡谷市民病院 整形外科

○上甲巖雄、鴨居史樹、田中 学、春日和夫、内山茂晴

1 歳 2 ヶ月男児。飼猫により左中指爪甲を貫通する咬傷を受傷。同日、数日の抗生剤内服を指示された。約 2 週にわたって患部の腫脹疼痛を愁訴に当院再診した際、骨髓炎により左中指末節骨骨融解を認め、緊急手術を行った。

## 15. ※母指 CM 関節症に伴い大菱形骨の急速圧潰を生じた 1 例

信州大学 整形外科<sup>1)</sup>

長野県立木曾病院 整形外科<sup>2)</sup>

岡谷市民病院 整形外科<sup>3)</sup>

○畑 宏樹<sup>1)</sup>、林 正徳<sup>1)</sup>、樋口祥平<sup>2)</sup>、岩川紘子<sup>1)</sup>、内山茂晴<sup>3)</sup>、中曽根潤<sup>2)</sup>、  
加藤博之<sup>1)</sup>

57 歳女性。母子 CM 関節症に対しステロイド関節内注射による保存療法を施行された後に大菱形骨の急速圧潰を生じたため、切除関節形成術を行った。画像および病理所見から大菱形骨の骨壊死が圧潰の原因と考えられた。

## 16. 関節リウマチの最適治療を目指して

浅間南麓こもろ医療センター リウマチ科

○宮 正彦

21 世紀になり生物学的抗リウマチ薬から分子標的合成抗リウマチ薬まで登場し、関節リウマチは寛解を具体的治療目標とする時代となった。生物学的抗リウマチ薬による最適治療を目指した治療効果予測について報告する。

————— <休憩 15 分> —————

## 脊 椎 (15 : 20~16 : 20)

座長：牧山 尚也 (軽井沢病院)

## 17. 頰椎症性脊髄症の術後自宅復帰に関与する因子についての検討

飯田市立病院 整形外科

○福澤拓馬、伊東秀博、野村隆洋、伊坪敏郎、畑中大介、宮澤 駿

頰椎症性脊髄症は患者の QOL に大きな影響を与え、残存症状や家族状況により自宅復帰が困難な症例もみられる。頰椎症性脊髄症の患者の術後自宅復帰に関与する因子を検討したので報告する。

## 18. MI-PLIF の長期成績

国保依田窪病院 整形外科

○三村哲彦、堤本高宏、由井睦樹、林 幸治、古作英実、三澤弘道

当院では 2004 年より単椎間の腰椎すべり症に対して MI-PLIF (Minimally invasive posterior lumbar interbody fusion) を行っている。今回、当院における MI-PLIF の長期成績を報告する。

## 19. \*Painless drop foot 様の症状を呈した腰椎椎間板ヘルニアの個人的体験

長野市民病院 整形外科

○中村 功、熊木大輝、日野雅仁、藍葉宗一郎、新井秀希、藤澤多佳子、  
松田 智

激痛を伴わずに下肢筋力低下を来し、painless drop foot (PDF) 様の症状を呈したと思われる腰椎椎間板ヘルニアを自分自身が体験したので、若干の文献的考察を加えて報告する。

## 20. \*腰椎椎間板ヘルニアに対して新規薬剤 Condoliase を用いて化学的髄核融解術を行った 1 例

長野市民病院 整形外科

○中村 功、熊木大輝、日野雅仁、藍葉宗一郎、新井秀希、藤澤多佳子、  
松田 智

腰椎椎間板ヘルニアに対して、髄核中のプロテオグリカンのグリコサミノグリカン鎖を特異的に分解する新規薬剤 Condoliase を用いた化学的髄核融解術を行い、症状の改善をみた症例を経験したので報告する。

## 21. 内視鏡下腰椎ヘルニア摘出術後再発危険因子の検討

国保依田窪病院 整形外科

○林 幸治、由井睦樹、堤本高宏、三村哲彦、古作英実、三澤弘道

内視鏡下腰椎椎間板ヘルニア摘出術を施行した症例について、術後ヘルニア再発症例群と再発しなかった症例群について再発危険因子について比較検討したので報告する。

## 22. Hybrid 手術室における脊椎ナビゲーション手術

信州大学 整形外科

○泉水康洋、高橋 淳、倉石修吾、池上章太、二木俊匡、上原将志、  
大場悠己、滝沢 崇、宗像 諒、畠中輝枝、加藤博之

当院では平成 30 年 5 月の先進包括医療棟稼働に伴い、Arzis Pheno と BrainLab Curve を導入した。この Hybrid 手術室における脊椎ナビゲーション手術の有用性につき報告する。

## 外傷 (16 : 20~17 : 10)

座長:林 正徳 (信州大学)

## 23. 平成 28・29 年の当院における大腿骨近位部骨折の治療経験

伊那中央病院 整形外科

○笹尾真司、小池 毅、樋代洋平、比佐健二、荻原伸英、原 一生

超高齢社会が進む中、骨粗鬆症に伴う脆弱性骨折は依然増加傾向にある。当院における直近 2 年間 (平成 28・29 年) の大腿骨近位部骨折の治療経験をまとめ、今後の治療における考察を加えて報告する。

## 24. 新鮮外傷性肘関節脱臼に対する徒手整復困難症例の検討

北アルプス医療センターあづみ病院 整形外科

○磯部文洋、中村恒一、松葉友幸、石垣範雄、向山啓二郎、太田浩史、  
狩野修治、新津文和、畑 幸彦

外傷性肘関節脱臼では稀に徒手整復が困難なことがある。徒手整復が困難な肘関節脱臼の特徴を明らかにすべく、当院で整復を行った新鮮例 30 例 30 肘の脱臼方向、骨折の有無、整復阻害要因を検討したので報告する。

## 25. 橈骨遠位端粉碎骨折に対しての、創外固定と内固定の併用例 2 例

すみだクリニック 整形外科<sup>1)</sup>

町立千曲病院 理学療法科<sup>2)</sup>

○隅田 潤<sup>1)</sup>、星野貴正<sup>2)</sup>、木次翔子<sup>2)</sup>、井出祐里恵<sup>2)</sup>

橈骨遠位端粉碎骨折の治療には困難を伴うことが多いが、創外固定と内固定を併用することで、より解剖学的に正確に整復でき、術後の機能も良くできるのではないかと試みている。まずまずの成績を得られた 2 例を報告する。

## 26. ＊鎖骨骨折術後に生じた上腕の深部静脈血栓塞栓症・肺動脈血栓塞栓症の 1 例

信州大学医学部附属病院 整形外科<sup>1)</sup>

相澤病院 整形外科センター<sup>2)</sup>

○北村 陽<sup>1)</sup>、小林伸輔<sup>2)</sup>、清野繁宏<sup>2)</sup>、小平博之<sup>2)</sup>、山崎 宏<sup>2)</sup>

鎖骨骨折の合併症として上腕の深部静脈血栓塞栓症の報告は稀である。今回鎖骨骨幹部骨折に対しプレート固定を行い、術後に深部静脈血栓塞栓症および肺動脈血栓塞栓症を生じた 1 例を経験したので報告する。

## 27. ＊小児上腕骨顆上骨折後の内反肘変形に対する三次元実態模型を用いた矯正骨切り術の経験

佐久市立国保浅間総合病院 整形外科

○坂井邦臣、村島隆太郎、角田俊治、有吉 大、中村 洋、佐々木貫了、  
喜多岡亮太、石井大輔、竹居隼人

5 歳男児上腕骨顆上骨折後の内反肘変形。健側の CT データからコンピュータシミュレーションにて適切な骨切り量を計測し 3D 骨切りガイドを作成。骨切りガイドの使用により安全、確実な矯正骨切り術が可能であった。

## 28. ＊橈骨矯正骨切り術を行った小児橈骨尺骨遠位骨幹端骨折の 1 例

長野中央病院 整形外科

○下田 信、水谷順一、後田 圭、前角正人

9 歳男児。上腕骨顆上骨折に橈骨尺骨遠位骨幹端骨折を伴って受傷した。骨折経皮的鋼線刺入固定術を行うも橈骨が変形癒合した。人工骨移植と掌側ロッキングプレートを使用して矯正骨切り術を行い、変形は矯正された。



# 教育研修講演

(17:30～18:30)

講師：土田芳彦 先生

湘南鎌倉総合病院 副院長 外傷センター長

演題：若手に伝えたい外傷整形外科医の心

座長：加藤博之 先生

信州大学医学部運動機能学教室 教授

認定単位： 日本整形外科学会専門医資格継続 1 単位

(2. 外傷性疾患(スポーツ障害を含む)、

または運動器リハビリテーション単位(Re))

※単位取得希望の方は 1,000 円を当日受付にて申し受けます。

※教育研修講演の単位取得申請は IC 会員カードによるデジタル登録で行います。

単位取得希望の方は IC 会員カードを必ずお持ちください。

終了後、浅間南麓こもろ医療センター3階 休憩スペースにて懇親会を行います。  
会費は不要です。多数の先生方のご出席をお待ちしております。

## 小諸市市民交流センターのご案内

### ＜お車で来院される場合＞

- 上信越自動車道 小諸I.C.より10分



※お車でお越しの方へ

\*カーナビで小諸市役所と入力してください。

(病院が新築のため、カーナビ入力すると以前の病院の場所に誘導される場合があります。)

- ・上記記載の駐車場に駐車をお願いいたします。
- ・2時間まで無料。帰る際に2Fの受付にて機械処理をすると無料になります。